

活動主題 「日本の衣文化を大切にする」**活動の価値**

和服は、人々の生活の知恵によって発展を繰り返して、昔から脈々と受け継がれてきた日本の伝統的な衣服である。和服の特徴は、四季による色や柄、素材があり、帯などとの組み合わせで自分だけの装いを組み立てることができる。平面構成であるため、体型が変わっても長く着ることができる。またほどいて一枚の反物に戻し、世代を越えて子や孫へ受け継いだり、別の物につくり替えたりすることが容易である。現在でも人生の節目や成長を祝う行事で和服を着用する場面が多い。しかし、明治以降、和服を取り巻く環境は大きく変化し、日常着として和服を着用する機会が少なくなっているのも事実である。これは、自装の難しさや金銭面、管理面への不安があるためだと言われている。シーラ（2018）は、「楽しく和服を着ること。和装のルーツに縛られるのではなく、ファッションとしての和服の可能性を思う存分に追究することが大切である」と言っている（シーラ・クリフ「シーラの着物スタイル」）。つまり、自分に合った形で和服の特徴を取り入れていくことが、日本の衣文化を大切にすることにつながる。

本活動は「日本の衣文化のよさを大切にする」を活動主題とし、日本の伝統的な衣服である和服について探究する活動である。この活動を通して子どもは、和服と洋服の構成と着方の関係に気づくことができる。また、日本の生活文化を継承する視点から和服に込められた知恵や思いに気づき、和服についてこれからの生活を展望して課題を解決する力を養うことができる。このことは、日本の衣文化を深く理解し、和服の特徴を実感することにつながることから大変意義のある活動である。

子どもの実態

本学級の子ども（〇名）に行った事前調査によると、和服を着た経験がある子どもは〇名であり、そのうち「七五三」〇名、「夏祭り・花火大会」〇名、「写真撮影」〇名、「卒業式・地域のイベント」〇名、「旅館」〇名であった。その際の和服を着た子どもの感想は、「動きにくい」〇名、「暑い」〇名、「重い」〇名、「着るのが難しい」「涼しい」〇名であった。「和服文化を生活の中で取り入れていますか」という質問に対して、「取り入れている」〇名であり、その理由を問うと「行事や祭りで着たことがあるから」「和服を持っているから」であった。また、「取り入っていない」〇名であり、その理由を問うと「和服を着る機会が少ないから」「和服を着たことがないから」「和服と聞いて浮かぶものがなかった」「洋服や制服を主に毎日着ているから」といった回答があった。さらに「和服のよさはなんだと思いますか」という質問について、「見栄えがいい・美しい」、「日本の伝統文化」「かっこいい・かわいい」「涼しい」「布が無駄にならない」「和を感じる」「分からない」といった回答があった。

以上の実態から、和服を着た経験がある子どもが多かったものの、日々の生活の中で和服の特徴を取り入れている子どもは少ない。また、和服の特徴についても、見栄えや美しさなどといった表面的なものに留まっており、根底にある和服の価値に気づいている子どもはいると言えないことが分かった。したがって、健康・快適。安全、生活文化の継承といった見方を働かせながら、日本の伝統的な衣服である和服に触れ、実践的・体験的な探究活動を通して、日本の衣文化の価値を捉えることができるように援助していく必要がある。

活動の指導観

そこで本活動では、日本の衣文化を継承する視点から衣生活における問題を見いだして課題を設定し、和服と洋服の構成や着方の違いに気づき、和服の特徴を理解し、論理的に表現し、日本の衣文化継承しようとする態度を養うことをねらいとする。そのために、次のような援助を行う。

- ・日本の衣文化を継承する視点から衣生活における問題を見いだして課題を設定することができるように、シーラ・クリフの和服の着方について考える場を設定する。
- ・和服と洋服の構成や着方に気づくことができるように、浴衣の着付けと1日和服体験を行う場を設定する。また、和服の特徴を理解することができるように、ジグソー法を用いて和服の特徴を調査する活動を設定する。
- ・論理的に表現し、日本の衣文化継承しようとする態度を養うことができるように、和服リーフレットを作成し、発表する活動を設定する。

○ 子どもの学習目標

和服のよさを探り、リーフレットにまとめることができる。

○ 教師の指導目標

日本の衣文化を継承する視点から衣生活における問題を見いだして課題を設定し、和服と洋服の構成や着方の違いに気づき、和服の特徴を理解し、論理的に表現し、日本の衣文化継承しようとする態度を養うことをねらいとする。

活動計画（6時間+α）

次	時	学習活動・内容	子どもの問いと思考	指導のねらい・内容・方法
本時 1 / 1	1 ①	1 着物研究家シーラ・クリフの和服の着方について考える。 (1) シーラ・クリフの和服の着方や取り入れた和服の文化について考える。 ・着方 ・形 ・柄 ・付属品 (2) 学習課題を設定する。 学習課題 和服の文化の特徴について探っていこう。	自分は和服の文化を取り入れているのかな。 和服を着ることが日本の衣文化を大切にするのではなさそうだな。これから和服のよさを探っていきたいな。	日本の衣文化を継承する視点から衣生活における問題を見いだして課題を設定することができるようにする。 ・日本の衣文化を継承する視点から衣生活における問題を見いだして課題を設定することができるようにシーラ・クリフの和服の着方や取り入れた和服の文化について考える。 ・日本の衣文化を継承する視点から衣生活における問題について課題解決の見通しを持つことができるように、疑問を明確にし、学習課題を設定する場を設定する。
	1 ③ + α	2 和服の魅力を分析する。 (1) 浴衣の着付けを行う。 ・浴衣の着方、たたみ方 ・帯の締め方 (文庫結び、貝の口) (2) 和服の特徴を調査する。 ・平面構成の特徴 ・帯や反物 ・捨てられるまでの過程 ・行事と和服の関係 (3) 歴史体験学習で1日和服体験を行う。 ・着物の着方、たたみ方 ・足袋 ・1日着用した気づき	和服のよさは何があるのだろうか。 和服の特徴は、素材感や組み合わせを楽しむことができたり、最後まで大切に使うことや行事と和服は関係があったりすることがあることが分かったぞ。	和服と洋服の構成や着方の違いに気づき、和服の特徴を理解することができるようにする。 ・和服と洋服の構成や短時間の着方の違いに気づくことができるように、外部講師による浴衣の着付けを行う場を設定する。 ・和服の特徴を理解することができるように、ジグソー法を用いて和服の特徴を調査する活動を設定する。 ・和服と洋服の構成や長時間の着方の違いに気づくことができるように、歴史体験学習で和服体験の場を設定する。
	1 ②	4 本活動を振り返る。 (1) 和服リーフレットを作成する。 ・色や柄で季節感を大切 ・使いやすさ（平面構成） ・日常着としての着用 ・行事を大切にする ・最後まで大切に作る (2) 和服リーフレットの発表を行う。 ・日本の伝統文化の継承 ・持続可能な社会の構築	これからも残したい和服の文化はなんだろう。 世代や時代を超えて受け継がれてきた日本の伝統的な衣服である和服を大切にしていきたいな。そして自分に合った形で和服のよさを取り入れていきたいな。	論理的に表現し、日本の衣文化継承しようとする態度を養うことができるようにする。 ・論理的に表現することができるように、和服リーフレットを作成する場を設定する。 ・日本の衣文化継承しようとする態度を養うことができるように、発表する活動を設定する。

本時 第一次の1時（1／1）

本時の指導観

第1学年の学習で子どもたちは、衣服の状態及び繊維の特徴と手入れや補修の仕方との関係を見いだして理解し、そのための技能を身につけ、洋服の製造過程で生じる余り布を用いた小物製作について学んでいる。その際、和服はどのようにになっているのだろうかという疑問をもった。そこで本時では、日本の衣文化を継承する視点から衣生活における問題を見いだして課題を設定し、課題解決の見通しを持つことができるようにする。そのために、着物研究家シーラ・クリフの和服の着方について考える活動を設定する。

主眼

日本の衣文化を継承する視点から衣生活における問題を見いだして課題を設定し、課題解決の見通しを持つことができるようにする。

本時の過程

学習活動・内容	指導のねらい・内容・方法	形態	配時
<p>1 本時の学習について考える。</p> <p>(1) アンケート結果から和服の文化を取り入れた生活について考える。 【和服を着た経験】 ・ある：○名 ・ない：○名 【和服の文化を取り入れた生活をしている】 ・そうである：○名 ・そうではない：○名</p> <p>(2) めあてを設定する。 和服の文化を取り入れた生活とは、何か探ろう。</p>	<p>和服文化を取り入れた生活について疑問を持ち本時の見通しを持つことができるようにする。</p> <p>・和服文化を取り入れた生活とは何なのか疑問を持ち、本時の問いを明確にすることができるように、アンケート結果から和服文化を取り入れた生活について考える場を設定する。</p> <p>・本時の見通しを持つことができるように、めあてを設定する場を設定する。</p>	一斉	15
<p>2 着物研究家シーラ・クリフの和服の着方について考える。</p> <p>(1) シーラ・クリフさんの和服の着方について考える。 ・着方 ・形 ・柄 ・付属品</p> <p>(2) シーラ・クリフさんが取り入れている和服の文化について考える。 ・伝統行事を大切にしている ・受け継がれた着物を着ている ・四季を大切にし、表現している ・日常着として着ている ・自分らしさを洋服と和服を組み合わせ表現している</p>	<p>日本の衣文化を継承する視点から衣生活における問題を見いだすことができるようにする。</p> <p>・日本の衣文化を継承する視点から衣生活について考えることができるように、シーラ・クリフさんの和服の着方について考える場を設定する。</p> <p>・日本の衣文化を継承する視点から衣生活における問題を見いだすことができるように、シーラ・クリフさんが取り入れている和服の着方について考える。</p>	一斉／個／小集団	25
<p>3 本時学習を振り返る。</p> <p>(1) 本時学習を振り返る。 ・和服の特徴って、何だろうか ・自分は普段の生活で和服文化を取り入れているのだろうか</p> <p>(2) 学習課題を設定する。 学習課題 和服の文化の特徴について探っていこう。</p>	<p>課題を設定し、課題解決の見通しを持つことができるようにする。</p> <p>・日本の衣文化を継承する視点から衣生活における問題について課題を設定し、課題解決の見通しを持つことができるように、疑問を明確にし、学習課題を設定する場を設定する。</p>	学級集団／個	10

活動の評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 和服と洋服の構成や着方の違いに気づくことができる。 和服のよさを理解することができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 日本の衣文化を継承する視点から衣生活における問題を見いだして、課題を設定している。 日本の衣文化を継承する視点から衣生活についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 日本の衣文化を継承する視点から衣生活における課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 日本の衣文化を継承する視点から衣生活における課題解決に向けた一連の活動を振り返り、これからの生活に生かせるように改善しようとしている。

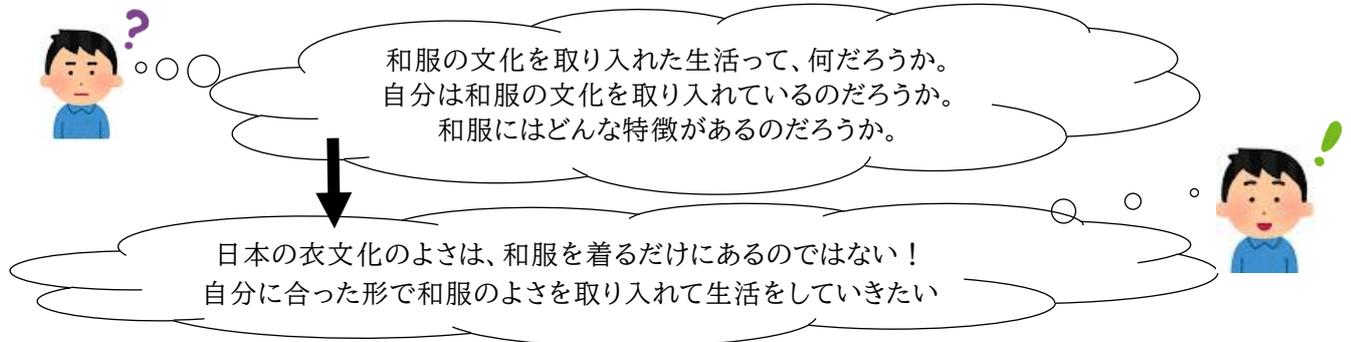
※ 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	時	学習活動	評価規準（観点：方法）	指導の個別化（手だて）
一	1 ①	<p>1 着物研究家シーラ・クリフの和服の着方について考える。</p> <p>(1) シーラ・クリフの和服の着方や取り入れた和服の文化について考える。</p> <p>(2) 学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>学習課題 和服の文化の特徴について探っていこう。</p> </div>	日本の衣文化を継承する視点から衣生活における問題を見いだして、課題を設定している。（思：学習プリント）	生活経験に応じて、個別に問う
二	1 ③ + α	<p>2 和服の魅力を分析する。</p> <p>(1) 浴衣の着付けを行う。</p> <p>(2) 和服の特徴を調査する。</p> <p>(3) 歴史体験学習で1日和服体験を行う。</p>	<p>日本の衣文化を継承する視点から衣生活における課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。（態：学習プリント）</p> <p>和服と洋服の構成や着方の違いに気づくことができる。（知：学習プリント）</p> <p>和服の特徴を理解することができる。（知：学習プリント）</p>	<p>明らかにしたい課題を個別に聞き、助言する。</p> <p>つまずいた場面を動画で確認するように促す。</p> <p>和服を着たことで実感したことを場面ごとに問う。</p> <p>課題にあった具体的な知識の提示や個別の助言を行う。</p>
三	1 ②	<p>4 本活動を振り返る。</p> <p>(1) 和服リーフレットを作成する。</p> <p>(2) 和服リーフレットの発表を行う。</p>	<p>日本の衣文化を継承する視点から衣生活についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。（思：和服リーフレット）</p> <p>日本の衣文化を継承する視点から衣生活における課題解決に向けた一連の活動を振り返り、これからの生活に生かせるように改善しようとしている。（態：学習プリント）</p>	<p>これまでの学習プリントを確認するように促し、個別に助言する。</p> <p>これからの生活で実践することができるように、生活経験に応じて個別に助言する。</p>

「日本の衣文化のよさを実感する」～授業の見所（資料）～

「生活を問い直す力」を育む家庭科授業の研究
～問いを立てるための実感を伴う場の設定を通して～

○ 子どもの問いと目指す子どもの姿



○ 問いを立てるための実感を伴う場とは

☆シーラ・クリフの和服の着方や取り入れた和服の文化について考える。

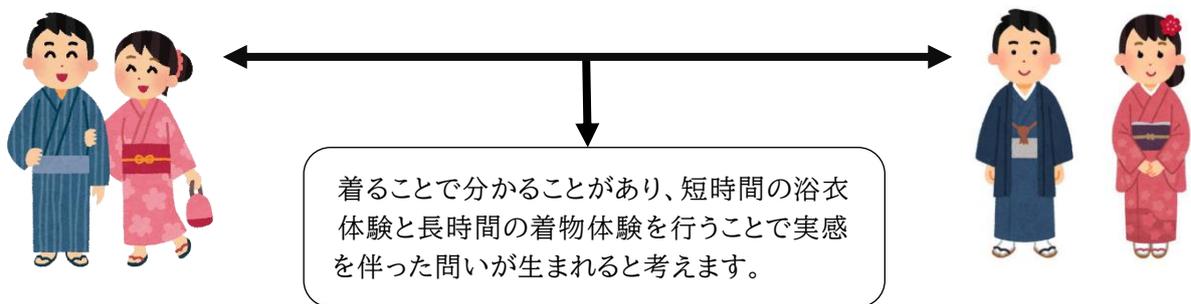
Sheila Cliffe(シーラ・クリフ)

1961年イギリス生まれ。着物研究家。十文字学園女子大学名誉教授。

一年を通じて、ほぼ毎日着物を着用している。従来の着物の着付けや着こなしはもちろんのこと、独特の感性で個性的な色や柄を組み合わせ、小物類も洋装に合わせることも多い帽子やハンドバッグ、履物もパンプス、ブーツ、スニーカーなどを合わせて現代の生活様式のなかで普段着として活用出来るシーラスタイルを提案している。



☆授業での短時間の浴衣体験、歴史体験学習での1日着物体験を行う場の設定である。



☆和服リーフレットを作成する場の設定である。

